北区の部屋だより

2018年10月

第111号

刊行物登録番号 29-2-124

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 30 年 10 月発行

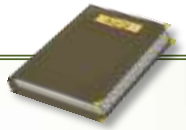
北区こぼれ話 第111回

明治の青年が迎えた「人類滅亡？」の日 ― ハレー彗星大接近 ―

平成 30 年（2018）夏、地球に大接近した火星をご覧になったでしょうか。赤く光るこの惑星は、一等星よりはるかに明るいマイナス 2.8 等星にまで輝きを増し、各地で星空観察会が開かれました。

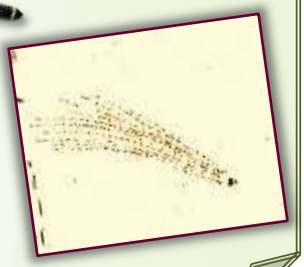
しかし、人類は、常にロマンチックな気分で天体を見上げてきたというわけではありません。彗星の出現や日蝕を恐れたという歴史があります。ハリウッドでは「アルマゲドン」や「ディープインパクト」など、天体と地球の衝突をモチーフにした映画が、たびたび制作されています。

過去の日本における天体パニックの一例として、「北区の部屋」で公開されている「高木助一郎日記」（中十条）の一節をご覧ください。



[明治四十三年]五月十九日　晴天　木曜日

今日ハ、愈々（いよいよ）ハレー彗星太陽ノ面ヲ通過シ、次イデ我ガ地球ハ彗星ノ尾ニ包マルヽナリト、幸ニ十時ニ至レバ天気晴朗ニシテ天ニ一ツノ雲片（うんぺん）ナシ、愈々十一時二十分ニ至リシモ何等（なんら）変リナク平日ノ如クナリシ、此ノ彗星ト地球ト衝突ナル事ニヨリテ悪星瓦斯（［性］が す）生ジテ地球上ノ人畜ハ悉（ことごと）ク地ニ絶エルト云フ迷信ヨリ、老母ナドハ近辺ノ神社仏閣ニ御参リヲスル等非常ナル騒ギナリシ



写真：高木助一郎が描いたハレー彗星⤴

ハレー彗星は、約 76 年周期で楕円形の軌道を回り地球に接近します。今から 30 年以上も前になりますが、昭和 61 年（1986）の接近のときに観測をしたという方もいらっしゃるでしょう。さらに、その 76 年前、明治 43 年（1910）のハレー彗星大接近のとき、世界中がパニックになったのは有名な話です。

この日記が書かれた明治 43 年 5 月 19 日は、世界中で、人類滅亡が予言されていた日です。様々なデマが流れ、人々は恐れおののきました。そのデマの一つが「地球はハレー彗星の尾のガスに包み込まれ地上から酸素がなくなる」という話です。彗星の尾には水素が含まれていて、それが、地球上の酸素と化合して酸素不足となり、生物が死滅するというのです。特に、午前 11 時 22 分から午後 0 時 22 分の間が危険とされました。今から考えれば、根も葉もない似非（えせ）科学ですが、当時の人々は真剣だったのです。

この日記を書いた助一郎さんは、とても冷静に、このことを「迷信」という言葉で片付けています。午前 11 時 20 分が過ぎても何も起こらず、そして平穏に一日を終えたあと、落ち着いた気持ちで日記帳を開いたのでしょう。

私は「ノストラダムスの大予言」というものを耳にした世代です。「恐怖の大王」が降ってくるはずだったのは「1999 年 7 の月」でした。何事もなく翌月を迎えた時、安心したような、少しがっかりしたような気持ちになったことを思い出します。この夜の助一郎さんも、そんな気持ちだったのかもしれません。

【地域資料専門員　黒川徳男】

◇北区の部屋・今月の展示

村絵図にみる江戸時代の北区 ―田端・中里・上中里―

▶江戸時代に作成された田端村、中里村、上中里村の村絵図を題材に、江戸時代の北区域の様子を概観します。

■**期　間：**平成 30 年 9 月 28 日(金)～10 月 24 日(水)
■**場　所：**「北区の部屋」企画展示コーナー

◇北区立図書館 80 周年・北区図書館活動区民の会 10 周年記念企画

シンポジウム「陸軍のまち赤羽・十条、海軍のまち横須賀」

▶戦前の軍事施設と地域との関係について、北区と横須賀市を比較する講演とディスカッションを行います。

●第 1 部　北区・横須賀についての講演　●第 2 部　参加者を交えてのパネルディスカッション

■**対　象：**中学生以上
■**日　時：**平成 30 年 11 月 17 日（土）午後 1 時 30 分～4 時 30 分（3 時間）
■**場　所：**中央図書館 3 階ホール
■**講　師：**國學院大學講師　高村聰史（たかむらさとし）氏 ／ 日本近現代史研究家　黒川徳男（くろかわのりお）氏
■**司　会：**日本近世史研究家　保垣孝幸（ほがきたかゆき）氏
■**定　員：**50 名（抽選）
■**申込み方法：**往復はがきの往信用裏面に講演名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号を、返信用表面には申込む方の住所、氏名を記入の上、10 月 31 日（水）（必着）まで。
※視覚・聴覚障害のある方は電話・ファクス申込可。
※手話通訳が必要な方は事前にご連絡ください。
■**申込み・問合せ先：**
〒114-0033　北区十条台 1-2-5　中央図書館図書係
TEL（5993）1125 ／ FAX（5993）1044
■**企画・運営：**北区図書館活動区民の会・北区立図書館

写真：陸軍被服本廠 従業員

◇今年も開催します！

“東京文化財ウィーク 2018”

■東京都教育委員会では、毎年、11 月 3 日（文化の日）を中心に都内全域の文化財の公開や様々な関連イベントを実施する「東京文化財ウィーク」を開催しています。

■北区も、ガイドステーションとして飛鳥山博物館や区内全図書館でガイドブックの配布をしています。さらに「北区の部屋」では、地域資料専門員が北区の文化財についての質問に応じる等の事業協力もいたします。文化の秋、身近な文化に触れ、東京の歴史や文化を楽しんでみてはいかがでしょうか。

左上：「東京文化財ウィーク 2018　通年公開編」
右下：「東京文化財ウィーク 2018　特別公開・企画事業編」

◇更新しました！！

“「北区」が登場する本のリスト”

■北区立図書館では、利用者の皆さまにご協力をいただき、【北区】に関する記述のある本の目録**【「北区」が登場する本のリスト】**を作成しています。今年も、１０月１日にリストを更新し、区内全図書館及びホームページでご覧になれます。リストにある本には、背表紙に**【さくらマーク**　**】**が貼ってありますので、ぜひ探してみてください。

■【北区の記述がある本】の情報は今後も引き続き募集いたします。

「これ、事件現場が飛鳥山だ！」
「この主人公、何かいつも赤羽の飲み屋街でへべれけになって飲んでるなー。」

…など、【北区】が登場する本を発見しましたら、各図書館のカウンター等に置かれている**「北区が載っている本を教えてください。」用紙**に詳細を記入し、図書館のスタッフへお渡しください。

■皆さまからの情報、心よりお待ちしています★

北区の部屋だより

2018年11月

第１１２号

刊行物登録番号　29-2-124

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 30 年 11 月発行

北区こぼれ話 第112回

「梶原塚（かじわらづか）」が見つからない？！

秋の旅行シーズンになりました。皆さんの中にも全国各地を訪れることが好きな方もいらっしゃるのではないかと思います。ガイドブックを頼りに様々な名所を訪れたり、仏像を見たり。でも、実際に行ってみたはいいけど、目的のものが見つからなかった、そんな経験はありませんか？

江戸時代の俳人菊岡沾涼（きくおかせんりょう）が享保（きょうほう）17 年（1732）に記した『江戸砂子温故名跡志（えどすなごおんこめいせきし）』（以下、『江戸砂子』）には「梶原塚」について、「尋（たず）ぬれとも不知（しれず）」、すなわち、行ってみたけれども見つからなかったと記されています。「梶原塚」とは、鎌倉時代の御家人梶原景時（かじわらかげとき）を葬った塚（これを小田原北条家家臣の梶原氏とするなど諸説あります）との伝承を持ち、梶原堀之内村という村名の由来ともなった塚です。『江戸砂子』は、名所旧跡を実際に訪ね歩いて刊行したものとされ、地図やその近傍（きんぼう）の目印になるようなところまで紹介している、まさに観光ガイドブックです。その作者が「梶原塚」を見つけられなかったというのです。

実は、その理由も同書からわかります。『江戸砂子』には「王子村にありと古書にあり」と記されており、菊岡は王子村を探し回っていたと思われるのです。北区の歴史に詳しい方はご存知かと思いますが、「梶原塚」は王子村の隣り、梶原堀之内村にありました。そう、彼は探す場所を間違えていたのです。

では、この「古書」とは何を指すのか疑問が残りますが、たぶん貞享（じょうきょう）４年（1687）に刊行された案内記『江戸鹿子（えどかのこ）』のことではないかと推察します。この『江戸鹿子』では「梶原塚」について、「豊島郡王子村」と記されており、『江戸砂子』の「王子村にあり」という記述とも一致します。すなわち、菊岡は 45 年前に書かれた案内記（＝「古書」）の記述を頼りに、王子村を探し回ったのでした。

さて、その後、菊岡は『江戸砂子』の補遺（ほい）・校訂版（こうていばん）として享保 20 年（1735）に『続江戸砂子温故名跡志』を刊行しました。彼は、ここでようやく「梶原塚」を探し出すことができました。そこには「前編の頃、王子村を訪れても知っている人がおらず、ついにその場所に辿りつくことができなかった。その後、再び王子村近辺に行って地元の人に尋ね、やっとその場所を見つけることができた。（現代語訳―筆者）」と記しています。同書によれば、その頃の「梶原塚」にはもう土盛りしたような塚はなく、荒川沿いの田んぼの中の平地に二本の松が生えていたといいます。

【地域資料専門員　保垣孝幸】

北区の部屋 今月の展示

テーマ：北区の隧道（ずいどう）　―トンネルをぬけるとそこは北区だった―
期　間：１０月２６日（金）～１１月２１日（水）
場　所：「北区の部屋」企画展示コーナー

北区は、複雑な地形を持つ街です。そして、交通機関が発達した街でもあります。普段はあまり意識しませんが、区内には、様々な隧道（ずいどう）つまりトンネルがあります。そして、現在では存在しないトンネルの痕跡もあります。今回の展示では、電車・自動車・人・水など、さまざまなものが通る北区内のトンネルについてご紹介します。

奥山峰石さん、おめでとうございます！

祝

この度、北区の名誉区民で人間国宝の鍛金家（たんきんか）・**奥山峰石氏（おくやまほうせき）**が**東京都名誉都民**に決定しました。

それを記念し、**奥山峰石氏**を紹介する書籍やＤＶＤを集め、特別展示を中央図書館にて開催いたします。人間国宝の素晴らしい作品集の数々をどうぞご覧下さい。

展示場所：中央図書館１階入口正面大型モニター側
展示期間：１０月２６日（金）～１１月２１日（水）

北区図書館活動区民の会地域資料部
❀「北区の歴史を学ぶ会」❀

空前の歴史ブーム！　歴史ファンの方々は、とてもよく勉強なさって理解を深めていらっしゃいます。**そこで！**

地元**「北区の歴史」**にも、詳しくなってみませんか。

北区図書館活動区民の会・地域資料部会では、**「北区の歴史を学ぶ会」**を開催しています。これまでの題材は「赤羽駅」「十条の雨乞（ご）い」「北区の坂道」「関東酸曹（かんとうさんそう）とカラミ煉瓦（れんが）」「武蔵国豊島郡域の特色」等、また昔の北区の様子を写した写真やスライドの紹介などもしています。この会は事前の申し込みは必要ありません。直接会場にお越しください。会の内容など、ご不明な点はお問い合わせください。

●日時：毎月第４火曜日　午後２時～４時　　●お問い合わせ先　　区民の会事務局
●会場：中央図書館３階区民活動コーナー　　☎ ０３-５９９３-１１２５（中央図書館内）

北区の部屋だより 2018年12月 第113号

刊行物登録番号 29-2-124

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 30 年 12 月発行

北区こぼれ話　第113回

板谷波山と加波山事件を結ぶ奇しき縁

― 飛鳥山と下館 ―

板谷波山・玉蘭の墓（筑西市の妙西寺）

明治初期の自由民権運動の歴史に、飛鳥山が登場します。野島幾太郎『加波山事件』（平凡社、昭和 41 年）には、自由民権運動が高揚する中、飛鳥山において、明治 16 年（1883）11 月 23 日、自由党壮士たちによる自由青年大運動会が開催されたとあります。その様子については「全員を源平二軍に分かちて、もってその力を角ぶ」と述べられています。もちろん、単純に運動会を楽しんだというわけではなく、自由民権運動の気勢をあげ、壮士たちの団結をはかるための政治集会という性格を持っていました。この運動会は、翌年に発生する加波山事件の関係者が中心となって開催したものです。加波山事件は、明治 17 年に、茨城県西部・栃木県南部・福島県などの自由党壮士たちが、茨城県西部の加波山において武装蜂起した事件です。彼らは、明治政府を「自由の公敵」と位置づけ、実力行使による立憲体制樹立や議会開設を目指しました。官憲との交戦の後、壮士らは、バラバラに逃亡し、秘密裏に飛鳥山に集合することを約束しました。「来月すなわち十月二十五日をもって飛鳥山に密会し、熟議の上、再び驚天動地の大活劇を演出し、もって帝国の政界を一新せん」と、再起を誓ったのです。しかし、これは実現せず、壮士らは各地で次々に逮捕されていきました。このように、飛鳥山は、自由民権運動の歴史をたどる上で重要な場所なのです。

茨城県筑西市 JR 下館駅近くの曹洞宗祥雲山妙西寺に、加波山事件で処刑された人々の墓があります。「筑西市指定文化財　史跡　加波山事件志士の墓」です。地元では、彼らを「自由民権の魁」とし「志士」と呼んでいます。かつては、彼らを靖国神社に祀ろうという運動までありました。

この「加波山事件志士の墓」の隣に、陶芸家の板谷波山と妻玉蘭（本名：まる）の墓があります。波山と言えば、田端文士芸術家村を語る上で、なくてはならない人物です。波山の墓は、北区田端の和光山興源院大龍寺のほかに、生まれ故郷の下館にもあるのです。波山は、陶芸家として有名になる前、糊口をしのぐために、花見客にむけて杯や徳利を焼いて売っていました。波山は、それに「飛鳥山焼き」と名付けました。明治 40 年頃のことです。

加波山事件志士の墓（同右上）

自由民権の壮士達は、飛鳥山で運動会を開催し、そして飛鳥山での再起を誓いつつ散っていきました。その約 20 年後、板谷波山は、陶芸家として志に燃えつつ「飛鳥山焼き」を売りました。彼らの墓が隣同士というのは、奇しき縁としか言いようがありません。

【地域資料専門員　黒川徳男】

★今月の歴史講演会・特別展示

「陸軍のまち赤羽・十条　海軍のまち横須賀」

▸北区図書館活動区民の会　地域資料部企画・運営
◇期間：11 月 23 日（金）～12 月 28 日（金）
◇場所：「北区の部屋」企画展示コーナー

戦前の北区は、赤羽・十条地区を中心に陸軍関連施設が多く集まっていました。軍関連施設が多いまちにはどのような特性が見られたのか、海軍施設が多く集まる神奈川県横須賀市と比較しながら紹介します。

本パネルの展示は、11 月 17 日（土）に行われたシンポジウム「陸軍のまち赤羽・十条　海軍のまち横須賀」の内容をもとに、北区図書館活動区民の会・地域資料部が作成しました。

★☆★講演内容は以下のとおりです★☆★

今回は二人の講師を招いて3部構成で行いました。第1部は高村聰史（たかむらさとし）講師による「海軍のまち横須賀」。横須賀と言えば、海軍カレーや軍港等、海軍に縁深いイメージがあります。では何故、横須賀が「海軍のまち」となっていったのでしょうか。もともと平地が狭く、海岸まで崖が迫る横須賀はとても貧しい寒村でした。しかし、江戸末期、幕府が大船建造を解禁すると、立地条件が造船所に適していたことから 1865 年「横須賀製鉄所」の建設が始まりました。後に明治政府へ引き継がれて完成し、「横須賀造船所」に改名、鎮守府が置かれ、軍港都市として飛躍的に発展していきました。大正2年（1913）には住民の半数が軍港関係者と、「海軍あっての横須賀」と呼ばれるほど海軍に依存したまちだったそうです。その後の依存脱却の試みや戦後米国による軍港占領等を経て今の横須賀に至るまでの流れを時系列に解説して頂きました。

高村聰史講師

続いて第2部は、黒川徳男（くろかわのりお）講師による「陸軍のまち赤羽・十条」です。大きい視点から取り上げた横須賀に対し、北区は小さな視点で身近な場所からとの前置きで始まりました。区内には大きな公園や団地、公共施設が多くありますが、それらは全て元軍事施設の跡地で、特に赤羽や十条には多く存在したと、一つずつ紹介してくれました。区内在住の方々には身近な施設の意外で興味深い話だったのではないでしょうか。ちなみに、北区立中央図書館の赤レンガの建物部分は元軍事施設だったのですが、昔は他にも赤レンガの建物がもっと多くあったそうで、壊さず残していれば某赤レンガ倉庫街みたいな観光地になったかも……と残念そうに話していたのが印象的でした。

黒川徳男講師

そして第3部では、高村・黒川両講師が再び壇上に立ち、保垣孝幸（ほがきたかゆき）地域資料専門員の司会により、参加者から頂いた質問をもとにディスカッションを行いました。時間の都合で、直接参加者との質疑や応答は叶いませんでしたが、講義に対する補足説明や裏話なども含め大変濃い内容となっていました。

今回は3部構成で3時間に渡る講演だったのですが、申込者も多く、終了後に講師に直接質問に行く参加者の姿もあり、テーマに対する関心の高さが伺えました。アンケートでも「今日の続きを聞きたい！」「同じテーマで第2弾をやって欲しい」等の要望を多く頂きました。

★北区立図書館 80 周年・北区図書館活動区民の会 10 周年記念

●小学生向けワークショップ「親子で謎解き！　中央図書館ナイトツアー」

▸ 北区図書館活動区民の会地域資料部企画・運営

誰もいなくなった夜の図書館を大冒険。
普段は何気なく利用しているこの場所は、実は…！？
親子で謎を解きながら歴史の核心に迫る！

★対　象：区内在住の小学生と保護者（必ず保護者同伴）
★日　時：平成 31 年 1 月 20 日（日）午後 4 時 45 分～7 時
★場　所：中央図書館 3 階ホール集合
★定　員：20 組（抽選）小学 6 年生優先

＜申込方法・申込・問合せ先＞

※往復はがきの往信用裏面にイベント名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、返信用表面には申込む方の住所、氏名を記入の上、12 月 18 日（火）（必着）まで。
※視覚・聴覚障害のある方は電話・ファクス申込可、手話通訳が必要な方は要事前連絡。

〒114－0033　北区十条台 1-2-5 北区立中央図書館図書係
TEL（5993）1125 ／ FAX（5993）1044

北区の部屋だより

2019年1月

第114号

刊行物登録番号　29-2-124

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 31 年 1 月発行

北区こぼれ話 第114回

四季折々の風情を楽しむ ～冬の飛鳥山～

寒い日が続き、雪の便りが届く季節となりました。まだ、東京都心部での積雪はありませんが、交通機関に大きな影響を及ぼし、事故の原因ともなることから、近年ではあまりいいイメージで語られなくなっている雪。しかし一方で、その美しさや静寂さから多くの人々を魅了してきたのも事実です。江戸時代、四季折々の景勝を楽しめる人気の行楽地であった北区域において、冬の名物といえば何といっても雪でした。

歌川広重「江戸近郊八景之内　飛鳥山暮雪」
（国立国会図書館所蔵）

寛永8年（1631）正月9日、三代将軍徳川家光が鷹狩りのため、王子の地を訪れました。徳川将軍が北区域で鷹狩りをしたことを確認できる最初の事例です。この時の様子を、家光の事跡をまとめた『大猷院殿御実紀』は、「この日、雪御覧のため、王子村辺に御鷹狩あり」と記し、家光が王子への道々、雪景色を楽しみつつ鷹狩りを行ったことを伝えています。王子周辺は雪見の絶好の場所として広く知られていたようで、歌学者戸田茂睡の『むらさきの一もと』でも、雪に関する項で王子金輪寺周辺の哀愁漂う静寂さを記しています。

その後も王子の雪は、多くの名所記、地誌類で取り上げられ、享保20年（1735）に版行された『続江戸砂子温故名跡志』では、王子権現社に深く積る雪について、歌を詠まずにはおけない景色だと記します。また、享和3年（1803）頃に版行されたとされる『増補江戸年中行事』では、雪の項として飛鳥山、王子を、更に天保9年（1838）に版行された『東都歳事記』でも11月の「景物」（四季折々の風物のこと）として「看雪」をあげ、そこに飛鳥山、王子周辺を記しています。

現在、飛鳥山のあすかパークレール「アスカルゴ」では、北区アンバサダー倍賞千恵子さんのアナウンスが流れていることをご存知でしょうか。そこでは、桜の頃とはまた違った冬の飛鳥山の魅力を紹介しています。せっかく四季のある国で暮らしているのです。雪の日に、春とはまた違った風景を楽しむのはいかがでしょうか。

【地域資料専門員　保垣孝幸】

北区の部屋 今月の展示

テーマ：村絵図に見る江戸時代の北区 その2
ー王子・西ヶ原・滝野川ー
期　間：1月5日(土)～1月23日(水)
場　所：「北区の部屋」企画展示コーナー

江戸時代に作成された王子村・西ヶ原村・滝野川村の村絵図を題材に、江戸時代の北区域の様子を概観します。

本当に住みやすい街大賞 2019（民間の金融機関の独自データをもとに決められた賞）で
「赤羽」が大賞に選定されました！

★交通利便の良さ　★商業施設が豊富　★親しみやすい　などの理由で選ばれ、今、大人気となり注目を集めています。「北区の部屋」としては、**赤羽**の歴史にも関心を持っていただきたく、地域資料として保管している写真の中から昔の赤羽の様子をいくつかご紹介します。

昭和 20 年代の赤羽駅東口駅前通りを赤羽駅ホームから撮影したものです。パチンコ店の前に軒を連ねているのは闇市（やみいち）です。
（渡辺 肇（わたなべはじめ） 氏撮影）

昭和 27 年の赤羽駅東口です。駅舎は木造でした。ボンネットバスに時代を感じます。
（手川文夫（てがわふみお）氏撮影）

昭和終戦後の赤羽東口大通り商店街（現在の LaLa ガーデン）です。道は、まだ舗装されていません。
（手川文夫氏撮影）

昭和 37 年頃の赤羽駅西口です。左端に停車しているバスが写っています。ただし、当時は現在のようなロータリーはありませんでした。
（倉田正義（くらたまさよし）氏撮影）

昭和 47 年の都電終点（現在の赤羽岩淵駅付近）です。この年 11 月まで赤羽には都電が走っていました。
（手川文夫氏撮影）

❁北区の写真を探しています！

今回ご紹介したような、北区の懐かしい写真は、「北区の部屋」で閲覧できます。また、大切な地域資料として古い写真を収集しています。ご協力いただける方は「北区の部屋」地域資料専門員までご連絡ください。

渡辺肇氏撮影

「Family Life in Tokyo Kita City ～住めば、北区東京。～」

北区広報課・北区観光協会共同で制作した冊子です。
「北区の部屋」を含む全 15 館にあります。今回大賞を受賞した「赤羽」はもちろん、子育て世代に向けた北区全域の情報が載っています。グルメ情報もありますので、ぜひご覧ください！

[書誌番号　3-0002961123]

北区の部屋だより

2019年2月

第115号

刊行物登録番号 29-2-124

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台 1-2-5　℡03-5993-1125　平成 31 年 2 月発行

北区こぼれ話 第115回

北区の地形の贈りもの
―湧き水を見にいこう！―

北区の地形は、西側の台地部と東側の低地部に分けられます。台地部は武蔵野台地の東端にあたり、低地部は浮間から田端新町へかけての荒川・隅田川に近い場所にあたります。そして、区のほぼ中央をＪＲ京浜東北線などが南北に走り、その線路のすぐ西側が崖になっています。それらの崖の高さは、場所によって異なりますが、だいたい 20 メートル前後あります。

このような地形ですから、台地部の地下水が、崖から湧き水として流れ出している場所があります。湧き水は、雨などの影響を受けますから、時期により現れたり消えたりすることがあります。今回は、その中でも安定的に見ることができる湧き水を中心にご紹介しましょう。

まず、よく知られている湧き水が、飛鳥山の湧き水です。飛鳥山と東側のＪＲの線路の間に、飛鳥の小径（こみち）があります。その道を奥へ、つまり南方向へ歩いて行くと、崖側のフェンス付近に、チョロチョロと流れる湧き水が現れます。水たまりもできています。飛鳥の小径は、初夏にはアジサイの名所としてにぎわいます。アジサイ見物のついでに、湧き水を見つけに行ってはいかがでしょうか。なお、飛鳥山公園の奥にある旧渋沢庭園から、この湧き水の源へ行くこともできます。急な階段を下（くだ）ることになりますが、間近に見ることができます。

飛鳥山の湧き水

つぎに王子駅から岸町の方向に北上し、王子稲荷神社を過ぎると、名主の滝公園があります。滝の水は、ポンプで汲み上げられています。しかし、公園内をよく見ると、湧き水の小さな流れを見つけることがあります。

さらに、北へ向かうと、南大橋の下に至ります。十条台と王子を結ぶ橋で、その下を京浜東北線や宇都宮線などが走っています。南大橋の下で耳を澄ますと、台地部から低地部へ続く側溝の中から、とても勢いよく水が流れる音がします。この水も、湧き水です。またさらに北上し、東十条駅北口跨線橋の下を過ぎると、荒沢不動尊があります。かつて、環七通り平和橋下の鉄道線路敷地にあったものを、この地に移したとする由緒書きの看板もあります。その不動尊の前に、四角い小さな池のようなものがあります。これが湧き水です。水量は豊富です。荒沢不動尊は、京浜東北線の車内からも見える分かりやすい場所にあります。

荒沢不動尊

これらのほかにも、北区全域で見ると、袋小学校、赤羽自然観察公園、音無さくら緑地、田端駅などにも、大小さまざまな湧き水があります。線路ぎわの崖などをもっと丹念に見て歩けば、家と家の間などに、わずかな湧き水を見つけることもできるでしょう。街の中で、このような小さな自然を訪ねるのも、なかなか面白いことだと思うのですが、いかがでしょうか。

【地域資料専門員　黒川徳男】

今月の展示

『秘密ヒミツの東十条 ―その歴史と魅力―』

○展示場所:「北区の部屋」展示コーナー
○展示期間:1 月 25 日(金)～2 月 27 日(水)

■今、赤羽がブームです。では、次に注目される街はどこか？　おそらく、そのお隣の東十条でしょう(担当者個人の意見です)。とにかく家賃が驚きの安さ。しかも静かな住宅街。商店街やスーパーが充実。大きな病院もある。
■そして、東十条駅からは、東京駅･横浜駅まで電車で一本。一駅北の赤羽駅からは、新宿駅･渋谷駅そして国際展示場駅にさえ楽に行けるのです。また、一駅南の王子駅からは、東京メトロ南北線に乗り換えられます。とても便利なのに、東十条駅の利用者数はJR京浜東北線で下から三番目。まだまだ伸び代がある東十条！
■今回の展示では、そんな東十条の歴史と魅力についてご紹介します。

公開歴史講座

○北区立図書館 80 周年記念

『名主 VS 惣百姓 ～村役人を糾弾する百姓たち～』

■江戸時代も後期になると、百姓たちは公正な村の運営をめぐり村役人と激しく対立していきました。
■今回の講座では、「村方出入」と呼ばれる村内部の争いを、専門家がわかりやすく解説します。

【日　時】3 月 9 日(土)午後 2 時～4 時
【場　所】中央図書館 3 階ホール
【講　師】日本近世史研究家　保垣孝幸氏
【対　象】中学生以上の方
【定　員】50 名(抽選)

【申込方法】往復はがきの往信用裏面に講座名、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を、返信用表面には申込む方の住所、氏名を記入して下記まで。 2 月 19 日(火)(必着)。
※視覚障害のある方は電話申込可。
※聴覚障害のある方はファクス申込可。
※手話通訳が必要な方は事前に要連絡。

【申込先】〒114-0033 北区十条台 1-2-5
中央図書館図書係 地域資料担当
TEL(5993)1125 ／ FAX(5993)1044

新刊図書

『北区こぼれ話2』完成しました！

○販売価格：200 円（B5 判・本文 104 頁）
○頒布場所：中央・滝野川・赤羽図書館
○問合せ先：〒114－0033　北区十条台 1-2-5
北区立中央図書館図書係　地域資料担当
TEL（5993）1125

■北区立中央図書館では、北区に関する雑学や豆知識を紹介する『北区こぼれ話』の第 2 弾を刊行します。
■「北区の部屋だより」で連載中の「北区こぼれ話」第 51～100 回をまとめたもので、 2 月 9 日(土)より 区内各図書館にて閲覧･貸出のほか、上記の3図書館で販売開始いたします。是非、ご覧下さい♪

開催しました！

○小学生向けワークショップ

『親子で謎解き！ 中央図書館ナイトツアー2019』

■1 月 20 日(日)、中央図書館で「親子で謎解き！中央図書館ナイトツアー」(企画･運営：図書館活動区民の会･地域資料部)を開催しました。
■これは、閉館後の図書館を調査し、図書館の秘密を解き明かしていく、親子参加型の大人気ワークショップです。旅行会社『ポンコ･ツーリスト』の社員に扮したスタッフが参加者を夜の図書館へと誘う、謎解きツアーの始まりです。
■参加者は、内容が穴だらけのガイドブックと暗号の手紙を片手に、親子で協力しながら図書館内外を調査。外壁のレンガの刻印を探し、普段意識しないラチス柱や屋根のトラス構造のしくみを調べ、閉架書庫にも入って秘密を探ります。そうして行く先々でヒントを得てガイドブックの穴を埋めていき、最後には全員が暗号を解いて秘密にたどり着くことが出来ました。
■ツアー中は、親御さんも子どもたちと一緒に謎解きや刻印探しを楽しんでいる姿が見られました。アンケートでも、「図書館の秘密がわかって良かった」、「普段入れないところも見ることが出来て楽しかった」、「親子で一緒に謎解きに熱中しました」等の感想をいただくことができました。